全産廃連 青年部 第4回スプリングカンファレンス 名古屋で開催

全国の青年部会長ら集結

全国産業廃棄物連合会青年部協議会（加山順一郎会長）は先月28日、名古屋市で「第4回全国産業廃棄物連合会青年部協議会 スプリングカンファレンス2014」を開催した。47都道府県の青年部会長らが一堂に会し、青年部の今後の活動などについて議論する会議で、過去最多の168人が来場（うち約40人が参加した。4回目となった今回は初の試みとして、11月に開催予定の青年部全国大会と同じ会場で、「プレ全国大会」的な位置づけで開催。「CSR2プロジェクト」の各地域の取り組み状況を確認するとともに、来年度以降の事業計画などについて話し合った。

全国青年部の発足から10年以上が経過し、現在では5ブロック47都道府県全てに青年部が組織されており、全国的なネットワークが構築され、成熟した組織となりつつある。しかし、成熟したがゆえに見えてくる問題点や、業界の変化、法改正への対応など課題も出てきており、今まで以上の連携が必要となってきている。こうした状況から、各県やブロックが抱える問題点や全国青年部への要望などさまざまな意見を集約し、次年度以降の運営計画に反映させる場として、11年から毎年2月にスプリングカンファレンスを開催している。過去3回は中止で行ったが、今回は次の全国大会開催地である名古屋での開催となった。

会議の冒頭で加山会長は、「スプリングカンファレンスも第4回となった。皆さんからの意見をいただき、よりよい青年部協議会の運営を今後も

「CSR2」進捗や今後の活動など議論

CSR2プロジェクトや今後の事業計画など、活発な意見交換が行われた

続けていきたいと思っている。会員各社の資質の向上、そしてわれわれ業界の認知の向上に向けて一生懸命取り組んでいきたい」などと語った。

まずCSR2プロジェクト勉強会を実施。来年度で4年目を迎え、昨年からは「進捗と進化」をテーマに掲げて取り組んでいる同プロジェクトの各都道府県での進捗状況などが確認された。同プロジェクトについては、11月の全国大会で成果報告および表彰を行うこととなっている。

また、会議では来年のスプリングカンファレンスの開催地を沖縄に決定。異業種との交流を図る事業の実施など、来年度の事業計画なども一部紹介され、活発な意見交換が行われた。

対談 スプリングカンファレンスの意義と青年部の今後

4回目を迎えたスプリングカンファレンスは、初めて名古屋市での開催となった。推進中の「CSR2プロジェクト」は3年が経過して徐々に全国会員に浸透しており、青年部では新たな事業展開も模索している。全国産業廃棄物連合会青年部協議会の加山順一郎会長と吉田典宏副会長に、スプリングカンファレンスの意義や青年部の今後について聞いた。（黒澤修）

――スプリングカンファレンスの意義は。

加山　スプリングカンファレンスは地方のそれぞれの青年部の皆さんと、中央の全産廃青年部協議会との意思疎通がスムーズに図れるよう、お互いの思いを顔がみえるいように伝え合う場である。中央からとして国の動きなどを地方の方々に伝え、地方の方々には今抱えている問題などを報告していただく。こうした全国の方々が集まるのは以前は年1回、総会の時しかなかったが、それではなかなか意思を言う機会もないということで2011年2月に初めて開催し、今回で4回目を迎えた。スプリングカンファレンスは、意見交換の場をもっと作ってほしいという地方からの意見で実現した。

吉田　私は茨城県産業廃棄物協会青年部の活動スムーズに図れるよう、役員を経て現在は会長をしている。中央からとして国の動きなどを地方の方々に伝え、地方の方々には今抱えている問題などを報告していただく。こうした全国の方々が集まるのは以前は年1回、総会の時しかなかったが、それではなかなか意思を言う機会もないということで2011年2月に初めて開催し、今回で4回目を迎えた。スプリングカンファレンスは、意見交換の場をもっと作ってほしいという地方からの意見で実現した。

吉田　私は茨城県産業廃棄物協会青年部の活動に一般会員から参加して